

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：12613

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23710317

研究課題名(和文)日米軍事組織におけるジェンダー政策の比較研究

研究課題名(英文)A Comparative Study of Gender Policies between the Japan Self-Defense Forces and the U.S. Military

研究代表者

佐藤 文香(SATO, Fumika)

一橋大学・大学院社会学研究科・准教授

研究者番号：10367667

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日本の自衛隊とアメリカの軍隊のジェンダー政策を比較研究したものである。自衛隊は創隊以来常に米軍をモデルとしながら女性の包摂をすすめてきたが、そのジェンダー政策には教育・訓練のジェンダー統合と性暴力防止のための施策づくりという二点に顕著な差異がある。本研究では、ジェンダー政策推進にあたり、軍隊内外の女性の連携の差異に着目し、アメリカにおいては軍隊を退役した元軍人の女性たちが政策推進のアクターとして軍隊の内外の女性たちをつなぐ重要な役割を占めていることを明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This research compared the Japan Self-Defense Forces(JSDF)'s and the U.S. Military's gender policies.

Although the JSDF has always emulated the U.S. military with respect to the inclusion of women, I considered the two notable differences between the two militaries' gender policies: gender integration in education and training as well as sexual violence prevention. Focusing on women's alliances between inside and outside of the military, this research clarified the important role women's veterans played in bridging the relationships between military women and civilian women in order to promote the U.S. military's gender policies.

研究分野：ジェンダー研究

キーワード：社会学 ジェンダー フェミニズム 軍隊 暴力

1. 研究開始当初の背景

本研究は日米の軍事組織のジェンダー政策を比較分析するものである。欧米諸国の軍隊には1970年代以降、女性が続々と参入していった。折しも第二波フェミニズムの興隆期と重なったため、軍隊への女性の包摂をめぐりフェミニストたちの議論もおこった。一方、こうした是非論を超え、軍隊の女性の社会学的研究が登場したのは1990年代になってからのことである。湾岸戦争が軍隊の女性への関心を集めたことで、こうした研究とその関心は拡張されつづけてきた。Mady W. Segal は、比較研究のために軍隊への女性の参加の質に影響を与える変数の分析枠組みを提起し、それらの変数を軍隊、社会構造、文化の3つのカテゴリーに整理した ("Women's Military Roles Cross-Nationally," *Gender and Society*, 9(6), 1995)。Segal のモデルを批判的に発展させ、Helena Carreiras は NATO 諸国の軍隊の比較研究を行った (*Gender and the Military* (Routledge, 2006))。軍隊での女性の機会を形成する要因をマクロ、メゾ、ミクロレベルの相互作用として分析した彼女の研究は、現在、比較研究として最高峰の位置にある。しかし、比較は西欧を超えて開かれるべきであり、包括的な研究への第一歩となることを本研究は目指した。

しばしば、軍隊はそのホスト社会の縮図であると言われるが、敗戦後の日本の社会科学において、研究者たちは長らく軍隊研究を忌避してきた。1970年代にミリタリー・ソシオロジーのレビュー論文を書いた社会学者の高橋三郎は、日本には戦争研究はあっても軍隊研究がなかったと述べた ('戦争研究と軍隊研究—ミリタリー・ソシオロジーの展望と課題' 『思想』605, 1974)。この傾向は、社会学のみならず歴史学においても同様で、「軍学共同」への忌避感から軍事史研究へのタブー視は1990年代まで続いたと言われている(倉沢愛子ほか編『戦場の諸相』(岩波書店, 2006))。

こうした背景のもとで日本の研究者たちが軍隊研究にとりくみだしたのは、ここ10数年内のことである。例えば、京都大学の人文科学研究所では、文化人類学者の田中雅一らのグループが、2003年よりアジアの軍隊についての共同研究を続けている ('人文学報』90(京都大学人文科学研究所, 2004))。この共同研究のメンバーの一人である Sabine Fruhstuck は、1998年に自衛隊研究に着手し、その成果は日米両国で出版された (*Uneasy Warriors* (University of California Press, 2007)、『不安な兵士たち』(原書房, 2008))。研究代表者が行った自衛隊の女性についての研究もこれら新潮流の中に位置づけることができる ('軍事組織とジェンダー』(慶應義塾大学出版会, 2004))。

こうして、軍隊はようやく日本でも社会科

学研究の対象となったが、自衛隊は、その歴史的経緯から、とりわけ憲法9条による制約から、常に日本特殊性論の文脈で語られ、比較研究の試みはいまだ不十分な状態にとどまっている。先駆的な研究として、PKO 派遣された自衛官の動機を、イタリアの軍事社会学者 Fabrizio Battistelli の枠組みで分析した河野仁の研究 ('自衛隊 PKO の社会学' 中久郎編『戦後日本のなかの「戦争」』(世界思想社, 2004))、軍民エリートの意識のギャップに関する調査を日本に応用し、国際比較を行った河野仁・彦谷貴子の研究があげられる ('冷戦後の自衛隊と社会' 『防衛大学校紀要社会科学分冊』92, 2006)。研究代表者自身もまた、既発表論文において、Carreiras の作成した指標を用いて、NATO 諸国のジェンダー統合の度合いと自衛隊のそれとを比較して位置づけた ('ジェンダー化される『ポストモダンの軍隊』』木本喜美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会』(旬報社, 2010))。こうした最先端の潮流をさらに深化させることを目指して、本研究では、ジェンダー視点から軍隊の日米比較を行うことにした。

2. 研究の目的

今日ますます多くの女性たちが男性の聖域とされてきた軍隊に参入するようになってきた。女性兵士の存在は、その国が「近代的」で「民主的」であることを示す象徴とされる一方、彼女たちが同僚の男性兵士から性的虐待の被害にあう事件も後を絶たない。本研究は、これまで研究代表者が行ってきた自衛隊のジェンダー研究のケース・スタディをグローバルな影響関係の中で検討することを目指し、その第一歩として日米関係を基軸とした比較研究を行うものである。

本研究の対象とする日米両国の軍隊における女性の統合プロセスは大きく見れば似通っている。

すなわち、ともに、看護職から女性の採用をはじめ、次第に支援職へ職域を拡大し、幹部養成学校への入学規制や職域制限の漸次撤廃をおこなっていった。しかしながら、本研究では日米の重要な違いとして次の二点に注目した。

第一に、アメリカでは第二次世界大戦中に創設された女性部隊が1970年代末に廃止され、教育・訓練過程への女性統合をすすめたのに対し、日本では1960年代後半から1970年代前半に開始された女性部隊での別教育・訓練体制が現在もなお続いているという違いである。第二に、アメリカで1990年代に相次いだ性暴力事件が2005年の性暴力防止・対策局 (SAPRO: Sexual Assault Prevention and Response Office) 設置のような軍隊の性暴力対策を導いたのに対し、日本ではセクシュアル・ハラスメントを含む性暴力への対策を怠ってきたという違いである。

自衛隊は常に米軍をモデルとしてジェンダ

一政策をすすめてきたが、上記二点は日米の大きな差異として注目されるものである。米軍内外でのどのような議論が、教育・訓練のジェンダー統合と性暴力対策を促進させたのか。本研究はジェンダー統合と性暴力防止という二つの差異を重点的に調査することにした。

3. 研究の方法

研究方法としては、先行研究レビューと資料収集を通じた文献研究を用いた。

4年間の研究期間中、2011年8月から2012年6月までをHarvard-Yenching Instituteの客員研究員としてアメリカで過ごし、ハーバード大学をはじめ、陸軍女性部隊博物館、アメリカ女性軍人記念館、海軍戦争大学博物館等で資料収集を行った。帰国後も二度の海外調査を行い、また国内外の学会活動および先行研究のフォローを通じて、ジェンダー政策の推進プロセスと、そこで元女性軍人が果たした重要な役割を明らかにすることができた。

4. 研究成果

(1) 初年度である2011年度は8月下旬より、Harvard-Yenching Institute客員研究員として渡米し、陸軍女性部隊博物館、アメリカ女性軍人記念館、海軍戦争大学博物館等での資料収集を行った。特にフォートリーの陸軍女性部隊博物館では、これまでつかむことのできなかった日本の女性自衛官教育隊設立前の米軍視察の動向に関する貴重な資料を入手し、Harvard-Yenching Instituteにて“A Camouflaged Military: The Japanese Self-Defense Forces and Globalized Gender Mainstreaming”と題する報告を行うことができた。

さらに、アーリントンで開催された「軍隊の女性」会議、ニューポートの海軍戦争大学が主催した「女性・平和・安全保障」会議にも参加し、関連分野に関する見聞を広めつつ、研究ネットワークの構築につとめた。

また、先行研究の検討につとめ、国際関係における男性問題をテーマとした論集 *Rethinking the Man Question: Sex, Gender and Violence in International Relations* を書評の形で紹介した。

(2) 二年目にあたる2012年度は、引き続き、6月までアメリカに滞在し、ハーバード大学を拠点として研究活動を行った。6月に日本に帰国した後は、アメリカで収集してきた資料を読みこみつつ、文献研究を通じた方法論的な検討につとめ、International Studies Association (ISA) でのフェミニスト国際関係論の方法論に関するセッションをもとに編まれた論文集 *Feminist Methodologies for International Relations* を書評の形で紹介した。また、前年にHarvard-Yenching Instituteで行った研究発表をもとに論文“A

Camouflaged Military: Japan's Self-Defense Forces and Globalized Gender Mainstreaming”を執筆した。この論文はThe Asia-Pacific Journal (APJ) よりオファーを受けて、コース・リーダーにも収録されることとなった。

(3) 三年目にあたる2013年度は、引き続き、アメリカで収集してきた米軍の教育・訓練のジェンダー統合および性暴力対策についての資料を読みこみつつ、関連する文献の講読を続けた。文献研究の成果は解説論文「ジェンダーの視点から見る戦争・軍隊の社会学」としてまとめた。

8月には、十文字学園女子大学で開催された国際セミナー International Seminar on Evaluation of National Action Plans to Implement UN Security Council Resolution 1325 and Other Related Resolution に出席、3月にはトロントで開催されたISAの年次大会に参加し、Feminist Security Studiesのセッションに集う研究者らと各国の軍隊のジェンダー政策についての意見交換を行った。また、2011-12年度の在外研究時に出席した軍隊の女性に関する会議について、資料報告「アメリカにおける軍隊の女性の今—軍隊の女性に関する会議に参加して」としてまとめた。

(4) 最終年度である2014年度には、引き続き、アメリカで収集してきた米軍の教育・訓練のジェンダー統合および性暴力対策についての資料を読みこみながら、関連する文献の講読を続けた。そのうち、第二次世界大戦時のフランスにおける米軍の性を扱った *What Soldiers Do: Sex and the American GI in World War II France* を書評の形で紹介した。また、軍隊の性暴力対策を歴史的に考えるため、一般市民にも開かれた一橋大学ジェンダー社会科学センター (CGraSS) 公開レクチャー「日本占領と性—性暴力、売買春から親密な関係まで」を主催(11月21日)。このレクチャーで講師を務めた茶園敏美氏の著書『パンパンとは誰なのか—キャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性』を書評の形で紹介した。

さらに、「軍事化とジェンダー」についての解説論文を執筆し、自衛隊の女性包摂のプロセスについて論じた研究成果を韓国語論文として発表することができた。

以上の4年間の研究成果を通して、日米の教育・訓練のジェンダー統合および性暴力対策とその推進にあたる軍隊内外の女性の連携の差異を考察し、アメリカにおいては女性退役軍人が政策推進のアクターとして軍隊の内外の女性たちをつなぐ重要な役割を占めていることを明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9 件)

佐藤文香, 2015, 「書評 茶園敏美『パンパンとは誰なのかーキャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性』(インパクト出版会, 2014)」, 『図書新聞』第3195号, 4頁, 査読無.

佐藤文香, 2014, 「外国文献紹介 Mary Louise Roberts, *What Soldiers Do: Sex and the American GI in World War II France* (University of Chicago Press, 2013)」, 『国際ジェンダー学会誌』第12号, 101-104頁, 査読無.

佐藤文香, 2014, 「軍事化とジェンダー」『ジェンダー史学』第10号, 33-37頁, 査読無.

佐藤文香・兪炳完, 2014, 「女性と自衛隊ーカモフラージュする女性の役割とジェンダー主流化」(原文韓国語)『日本批評』第11号, 82-109頁, 査読有.

佐藤文香, 2013, 「資料報告 アメリカにおける軍隊の女性の今ー軍隊の女性に関する会議に参加して」『国際ジェンダー学会誌』第11号, 117-127頁, 査読無.

佐藤文香, 2012, 「外国文献紹介 Brooke A. Ackerly, Maria Stern, and Jacqui True eds., *Feminist Methodologies for International Relations* (Cambridge University Press, 2006)」, 『国際ジェンダー学会誌』第10号, 119-122頁, 査読無.

Fumika Sato, 2012, “A Camouflaged Military: Japan's Self-Defense Forces and Globalized Gender Mainstreaming,” *The Asia-Pacific Journal*, 10-36-3, 査読有.

佐藤文香, 2012, 「外国文献紹介 Jane L. Parpart and Marysia Zalewski eds., *Rethinking the Man Question: Sex, Gender and Violence in International Relations* (Zed Books, 2008)」, 『国際ジェンダー学会誌』第9号, 103-106頁, 査読無.

兪炳完・佐藤文香, 2012, 「韓国女性軍人のプライドと困難ー男性中心な軍隊規範への順応に注目して」, 『国際ジェンダー学会誌』第9号, 49-67頁, 査読有.

〔学会発表〕(計 1 件)

Fumika Sato, “A Camouflaged Military: The Japanese Self-Defense Forces and Globalized Gender Mainstreaming”, Harvard-Yenching Institute presentation sponsored by the Harvard-Yenching Institute and the Reischauer Institute of Japanese Studies, 2012年2月22日, Cambridge(USA)

〔図書〕(計 1 件)

佐藤文香, 福間良明・野上元・蘭信三・石原俊編, 2013, 『戦争社会学の構想ー制度・体験・メディア』, 233-269頁, 総頁450, 勉誠出版

〔その他〕

ホームページ等

Harvard-Yenching Institute

<http://www.harvard-yenching.org/scholars/sato-fumika>

<http://www.harvard-yenching.org/2012-2013-hy-past-events>

<http://www.harvard-yenching.org/recent-allumni-news>

CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第28回「日本占領と性ー性暴力、売買春から親密な関係まで」2014年11月21日開催

<http://gender.soc.hit-u.ac.jp/lecturereport.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 文香 (SATO, Fumika)

一橋大学・大学院社会学研究科・准教授

研究者番号: 10367667